

平成 22 年 2 月号の ET センターニュースで AI 後 14 日目での eCG 投与により受胎率が向上した事例を報告いたしました。2011 年国際胚移植学会でも南米の研究者による同様の研究結果の報告がありました。現場での受胎率向上の参考になりましたら幸いです。

**プロジェステロン徐放剤抜去時と定時人工授精後 14 日目の eCG 投与が受胎率に及ぼす影響 (R.Nunez ら Brazil)**

母体の妊娠認識が起こる時期 (妊娠 15 日前後) に血中プロジェステロン濃度が高いと胚の生存性が向上する。このことから eCG 投与により黄体を賦活化することで胚の生存性、受胎率の向上を誘導できるかもしれない。そこで、分娩後 60-90 日での授乳中の経産肉用牛 (n=297) および 2 歳の未経産肉用牛(n=689)を供試し、それぞれ**プロジェステロン徐放剤(DIB)抜去時**および**定時人工授精 (FTAI) 14 日目に eCG400IU** を投与、非投与で受胎率に差が認められるかどうか調査した。定時人工授精プログラム、結果は以下の通り。

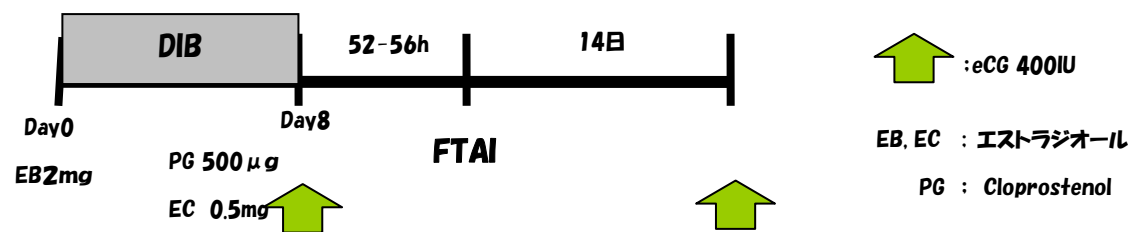


図 1. 定時人工授精プログラム

表 1. 結果

|                        | 経産牛                          | 未経産牛                          |
|------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| eCG非投与                 | 43. 1% (31/72) <sup>a</sup>  | 36. 9% (66/179) <sup>a</sup>  |
| DIB抜去時にeCG投与           | 62. 5% (45/72) <sup>b</sup>  | 46. 9% (83/177) <sup>b</sup>  |
| AI後14日目にeCG投与          | 55. 8% (43/77) <sup>ab</sup> | 39. 0% (64/164) <sup>ab</sup> |
| DIB抜去時およびAI後14日目にeCG投与 | 82. 9% (63/76) <sup>c</sup>  | 46. 8% (79/169) <sup>b</sup>  |

異符号間で有意差あり (P≤0.05)

結論として肉用牛において、DIB 抜去時の eCG 投与により経産、未経産問わず受胎率が向上した一方で、FTAI 後 14 日目での eCG 投与により経産牛では受胎率の向上が認められたが、未経産牛では認められなかったという結果でした。

後日、ET 後 7 日目の eCG 投与が受胎率に及ぼす影響について報告させていただきます。